

「石神井川の河川争奪 (3)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

石神井川の「河川争奪」は、上流部（源流部）ではなく、ほとんど隅田川と合流する寸前の最下流部で起きました。



(国土地理院地図／陰影立体図)

図は石神井川最下流部（現在の王子駅付近）から田端～上野（不忍池）付近の立体地図です。これを見ただけでは、「武蔵野台地の最東端は意外と複雑な地形だ」としか気づかないと思います。それはそれで、非常に正しい読図だと思います。



(国土地理院地図／田中加筆)

そこに地形や地名・駅名を入れてみました。このあたりは、武蔵野台地東端を、多くの小河川が浸食した「浸食谷」と、浸食を免れた「舌状台地」が複雑に入り組んでいることがわかります。その中で、上野台地と本郷台地を隔てている「谷間」が、「谷田川（やた

がわ)」という川が流れていたところです。この谷田川、実はかつては石神井川の本流だったことがわかっています。現在の王子駅付近（音無溪谷付近）で流路が変わり、石神井川本流はまっすぐ隅田川方面に方向を変えてしまったのです。

実はこの流路変更には3つの説があります。

- ①自然の河川争奪による流路変更
- ②江戸時代に行われた人為的な流路変更
- ③上記①に加え②で時期が早まった

これらは論争があり、いくつかの論文も出ています。流域ボーリングなどの地質調査から①の説が有力なようです。



(グーグルマップ写真)

「古石神井川（こしゃくじいがわ）」の流路だった谷田川は、現在は暗渠化され、地上を流れる水路を見ることはできません。しかし交差点名にはその名残が見られます。写真は、JR 駒込駅から王子方面に行く道にある「霧降橋（しもふりばし）」という交差点です。現在橋はないですが、交差点名だけ残っているのです。王子方面はゆるやかな上り坂になっています。



(グーグルマップ写真)

同じ交差点から駒込駅方面を見ると、やはりゆるやかな上り坂です。この交差点が谷田川（古石神井川）の「谷底」なので、このような地形が見られるのです。